

「夢を育み、感動・笑顔・歌声あふれる学校」



学校教育目標

おおらかで たくましく
進んで学ぶ子
地域とともに生きる子



新座市立東野小学校

令和6年 1月 9日 (火)

TEL: 479-7280 ホームページ

FAX: 482-6794 QRコード



新しい年のスタート!

校長 齋藤 伸一

新年あけましておめでとうございます。令和6年(2024年)、新しい年がスタートいたしました。旧年中は、本校教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。本年も教職員一同、力を合わせて子供たちの健やかな成長のために取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

また、年明け早々令和6年1月1日に発生した石川県能登半島地震により、犠牲となられた方々にお悔やみを申し上げるとともに、被災されたすべての方々に心よりお見舞い申し上げます。あわせて、被災地域の皆様の安全確保を心よりお祈りいたします。

さて、第100回東京箱根間往復大学駅伝(10区間、217.1km)がお正月の2日、3日に行われ、青山学院大学が往復路を制し、総合新記録の完全優勝で2年ぶり7度目の栄冠に輝きました。絶対的な優勝の本命と見られていた、2年連続の学生駅伝三冠(出雲駅伝・全日本大学駅伝・箱根駅伝)に王手をかけていた駒澤大学を破っての総合優勝でした。優勝会見で、青山学院大学の



原晋監督の第一声は、元日に発生した能登半島地震への配慮でした。「1月1日、能登震災において、本来であればお正月は家族団らんで、おせちやお雑煮を食べながら2、3日箱根駅伝をご覧いただける方、数多くいらっしゃると思う。しかし、あのような災害の中で今でも苦しんでいる方がいらっしゃる。そんな中での箱根駅伝、開催させていただいたことに対して、まずもってお礼を申し上げたい。ありがとうございました。」と話していました。2日の往路優勝後にも「能登震災で開催できるかどうかかわからない中、多くの被災にあわれた方がいる中で、箱根駅伝できること、本当に感謝申し上げます。」とも話し、被災地への気遣いを見せていました。

また、原監督はこれまで「ハッピー大作戦」や「ハーモニー大作戦」などユニークな作戦名を発表し、話題となってきました。今大会は「負けてたまるか!大作戦」で挑んでいました。昨年12月の壮行会で、「負けるな大作戦だと受け身の言葉。負けてたまるか大作戦は、攻めながら勝つ積極的な言葉。」「いろんなことがあったが、最後はチーム一丸となって1強と言われる駒澤大学に負けてたまるかという思いで戦いたい。」と決意表明をしていました。原監督が決意表明をした「負けてたまるか」という気持ちは、地震により被災されている方々への希望や勇気にもつながるのではないかと思います。

幸い埼玉県は、何事もなく無事に3学期を迎えることができました。原監督の言葉から、「被災地への気遣い」や、「負けてたまるか」という気持ちを学び、より一層気を引き締めて教育活動に取り組んでいく所存です。

3学期は、学級の仲間と一緒に過ごす日々も少なくなり、「感謝と希望」の気持ちを高められる時期でもあります。身近な友達の下さを見つけ合い、認め合い、さらに自分自身を高めていけるように支援してまいります。そして、子供たちが卒業や進級、夢の実現に向けて意欲や努力を高めていけるように取り組んでまいります。

保護者・地域の皆様、関係機関の皆様には、昨年にも増して本校の教育活動にご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

